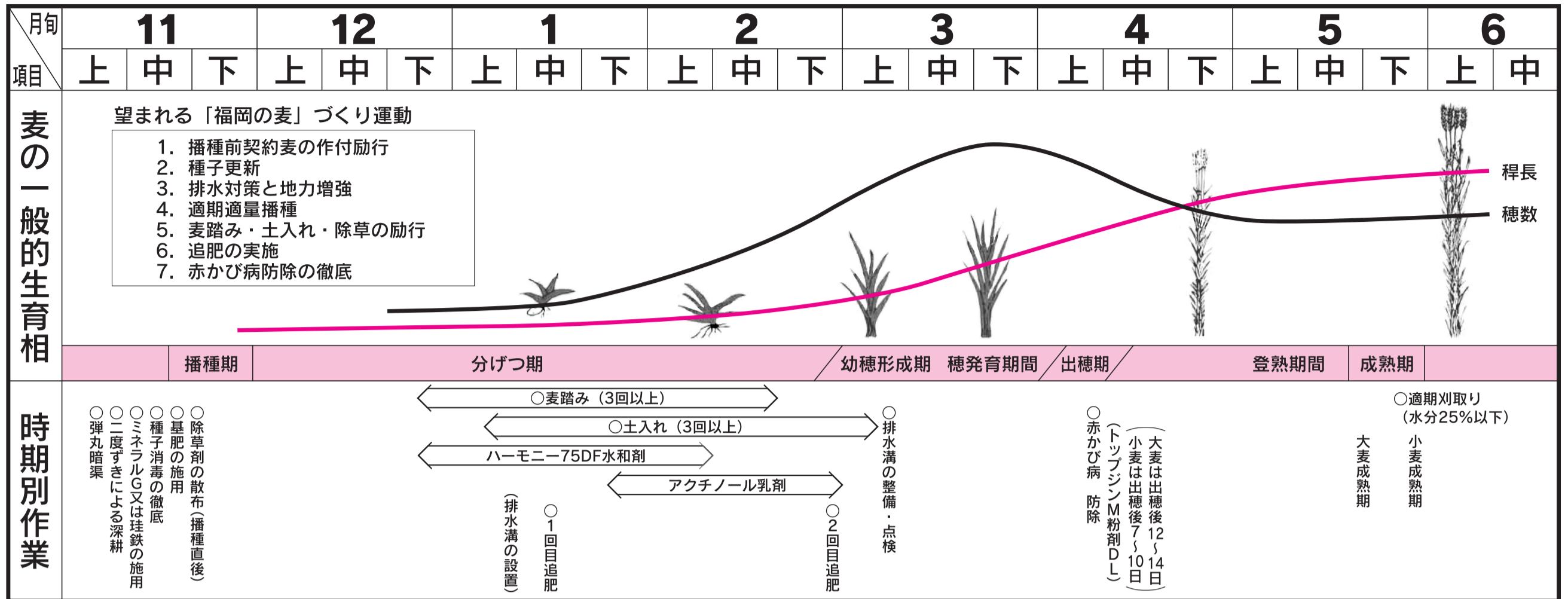


平成29年産 麦類栽培ごよみ

三井地区農業振興協議会
JAみい
久留米普及指導センター



●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

1. 土づくり

- 土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。
 (1) 適正なpH(6以上)を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当たり200kg施用する。
 また土壌の酸性が強い場合は、10a当たり炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。
 (2) 稲ワラ還元及び大地めくみちゃん(1t/10a当たり)の施用
 (3) 深耕(作土深15cm目標)

2. 優良品種の作付けと種子更新

品質の良い、望まれる麦づくりと種子伝染性の病害の発生を防ぐため、毎年100%の種子更新を行う。

3. 排水対策

湿害を受けやすいので、ほ場内に停滞水を生じないように排水対策が必要です。
 (1) 有材暗渠 (2) 弾丸暗渠(基準2m間隔) (3) 畦立て及び排水溝の整備

4. 適期・適量播種

- (1) 播種適期
 小麦 11月15日～25日
 (シロガネコムギ11月15～20日・チクゴイズミ11月20～25日) (品質向上の為適期に播種をしましょう)
 大麦 11月20日～30日
※大豆の後作は、大麦の作付を行きましょう。

(2) 播種量 (10a当たり)

種類	様式	ドリル播	バラ播	1升当りの重量
小麦		7kg (5.5升)	10kg	1.3kg
大麦		6kg (5升)	8kg	1.2kg

※厚播は倒伏しやすく、品質が低下しやすい。大豆後作は播種量を減ずる。

- (3) 播種深度
 適正深度 2～3cm(大豆の後作は、深播きになりやすいので、注意する。)

5. 種子消毒

裸黒穂病・なまぐさ黒穂病・斑葉病・シロトビムシ類対策

	使用薬剤名及び使用方法 (種子10kg当たり)
小麦	ベンレートコート 50g (0.5%) + 劇アトマイヤー水和剤 15g (0.15%) 種子粉衣
大麦	トリフミン水和剤 50g (0.5%) 種子粉衣

6. 施肥基準

(10a当たり)

種類	品種名	基肥	追肥			
			1回目(1月中下旬)	2回目(2月下旬頃)		
小麦	シロガネコムギ	40kg みい極464 (14-16-14) 又は ちくこのめくみ444 (14-14-14)	麦追肥一発1号 (24-0-5)	35kg	なし	10kg
			みい極606 (16-0-16)	30kg	みい極606 (16-0-16)	
	チクゴイズミ	40kg	麦追肥一発1号 (24-0-5)	30kg	なし	10kg
			みい極606 (16-0-16)	25kg	みい極606 (16-0-16)	
大麦	ほうしゅん (小郡地区) 大刀洗地区	40kg みい極464 (14-16-14) 又は ちくこのめくみ444 (14-14-14)	みい極606 (16-0-16)	20kg	なし	10kg
	はるか二条 (北野地区)	みい極606 (16-0-16)	20kg	みい極606 (16-0-16)		

※大豆後作は基肥基準より約5割減とする。又、追肥は生育に応じて加減する。

●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底!

- ※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。
- ※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。

7. 除草剤使用基準

区分	除草剤名	処理方法(10a当たり)			対象雑草	使用上の注意
		使用量	希釈水量	散布時期		
初期除草剤	リベレーターフロアブル	60ml 80ml	100ℓ	播種直後～出芽前	初期に発生する一年生雑草	1.リベレーターフロアブルの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。 2.除草効果を高めるため土塊は小さくして鎮圧しは種後早い時期に散布する。 3.覆土は3cm程度とする。 4.散布後の大雨は葉害を生じる恐れがある。 5.風向きに注意して散布しましょう。 6.飛散の少ないノズルに交換しましょう。
	ムギレンジャー乳剤	400ml 600ml				
	クリアターン細粒剤F	4～5kg				
	キックボクサー細粒剤F	3～4kg				
中期除草剤	ハーモニー75DF水和剤	5～10g	100ℓ	1月上旬～2月中旬頃 麦1葉期～節間伸長前	一年生広葉雑草(ヤエムグラ4節まで)及びスズメノテッポウ5葉期まで	1.隣接田の野菜・豆類にかからないように注意する。 2.麦が黄化することがあるが、後で回復する。 3.使用後の散布器具は消石灰による規定の洗浄を行う。 4.除草剤抵抗性スズメノテッポウが増加しているほ場では使用しない。
	アクチノール乳剤	100ml 200ml	70 100ℓ	カラス/エンドウ 2～3葉期	一年生広葉雑草(カラス/エンドウ)	1.広葉の雑草発生揃～6葉期に有効。 2.ヤエムグラは2～4節期まで。 3.カラスノエンドウ2～3葉期まで。

※雑草防除のポイント

- 初期除草剤は、雑草が発生する前に散布し雑草の発生を抑える。
- 生育期間中は、中期除草剤または、耕種防除(土入れ)を組み合わせる雑草の防除を行う。
- トゲミノキツネボタンが増えてきているほ場では、初期除草剤+ハーモニー剤の体系防除を行う。

8. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量/10a当たり	種類	使用回数	使用時期
小麦(開花期) (出穂後7～10日)	粉剤 トップジンM粉剤DL 4kg	小麦	2回	収穫前14日まで
		大麦	1回	収穫前14日まで
大麦(穂揃い後10日) (出穂後12～14日)	液剤 トップジンM水和剤 1000倍 (水100ℓに100g)	小麦	2回	収穫前14日まで
		大麦	1回	収穫前30日まで

※赤かび病菌の毒素(DON)は、人畜に対して毒性が認められるため、防除を徹底してください。
 ※赤かび病防除薬剤は、作付け面積に応じて配達を致します。

9. 収穫

穀粒水分が大麦・小麦とも25%以下、大麦では穂首が80%程度曲がった時に収穫する。

品種特性表(JAみい調査データ)

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 ㎡当り	特性および栽培上の留意点
シロガネコムギ	4/8	5/29	82	8.3	417	○穂発芽しやすいので適期収穫に努める。
チクゴイズミ	4/9	5/30	84	7.8	360	○うどんこ病にやや弱いので赤かび病との同時防除を行う。
ほうしゅん	4/4	5/16	97	6.4	473	○湿害に弱いので排水対策の徹底を図る。 ○剥皮しやすいので、コンバインの回転数に注意して収穫する。
はるか二条	4/1	5/15	85	9.8	568	○適期播種に努める。 ○赤かび病にやや弱いので、適期防除に努める。

※栽培履歴(管理日誌)はご記入の上、提出してください。

(平成28年9月作成)